

おさらい: ナイ・ウェルチは大丈夫か？

例、同盟の2極化と2極化は、同じではないのか？

DAVID SINGERの第一法則

理論とは何か

\* 同じ枠組みから枝分かれして、結果を全て説明できると良い

参考: 囚人のジレンマゲーム (同時手番・1回きり、同・無限繰り返し)

## 第7回:合理的戦争原因論、民主的平和論とその対抗的議論

合理的戦争原因論、民主的平和論とその対抗的議論を概観する。

資料:砂原ほか『政治学の第一歩』有斐閣、第10章

## 第8回:内戦、テロリズム、非国家主体

内戦やテロリズムに関する国際関係論の代表的な研究を紹介する。

資料:砂原ほか『政治学の第一歩』有斐閣、第12章

## 第9回:国際政治経済

国際政治経済をめぐる諸理論・論点をカバーする。

資料:砂原ほか『政治学の第一歩』有斐閣、第11章

## 第10回:グローバリゼーションと国際関係(テキスト第8章)

グローバリゼーションが国際関係に与える影響の諸側面について講義する。

## 第11回:情報革命と国際関係(テキスト第9章)

情報革命による国際関係が受けている様々な影響と概念(例、ソフトパワー、パブリックディプロマシー)を講義する。

## 第12回:現在の引火点(テキスト第7章)

教科書を参照しながら国際関係のリスク要因について分析と議論を行う。

## 第13回:オンライン試験

# 合理的戦争原因論、民主的平和論とその対抗的議論

- バーゲニングと戦争のコスト
- 三大戦争原因
- 抑止と安全保障のジレンマ
- 安心共同体 (SECURITY COMMUNITY) という答え？ 共通の価値と安心供与
- 民主的平和論
- 民主的平和論への対抗的議論 (報道の自由の平和、商業的平和、領土の平和)

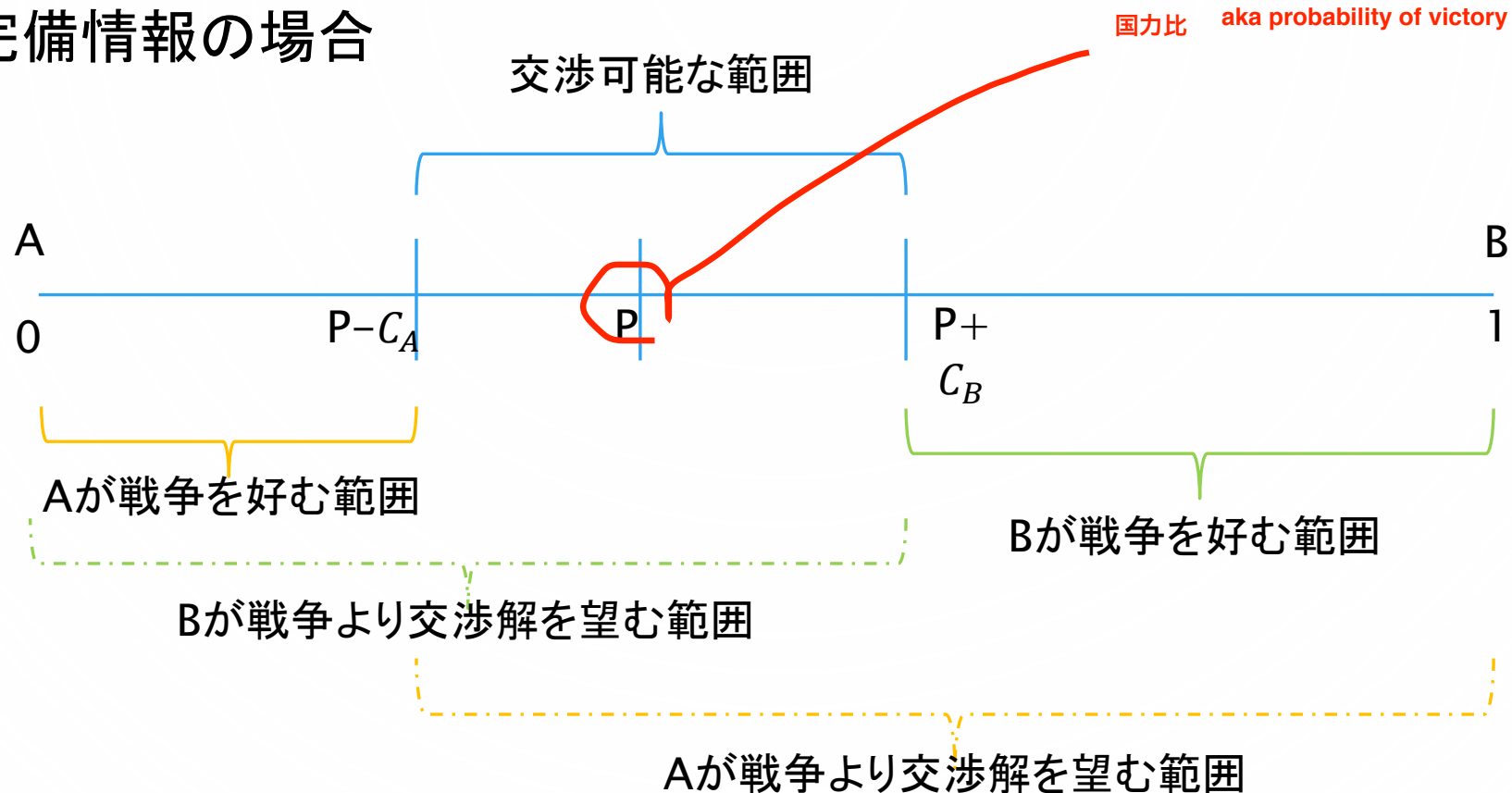
- 参考文献： 砂原、稗田、多湖

『政治学の第一歩』 有斐閣、2015年、  
第10章に依拠して進めます。



# バーゲニングと戦争のコスト

## ◎完備情報の場合



- 含意: 自分と相手の利益・能力が明らか(=完備情報)の場合、戦争は生じない

# 三大戦争原因

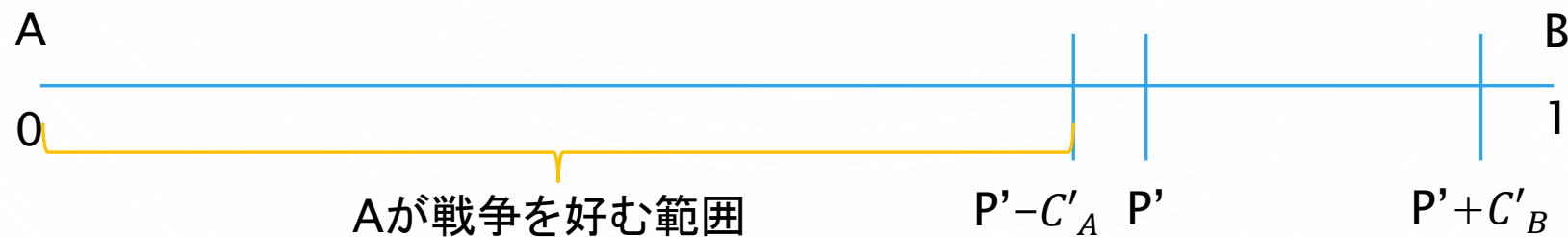
- 情報の非対称性(戦争は情報が完備でないから、不確実だから起こる)
- コミットメント問題(国際関係はアナーキー:情報が完備でも戦争は起こる)
- 価値不可分性(分けられないパイについては戦争が起こる)

## ◎能力や意図を誤認

現実

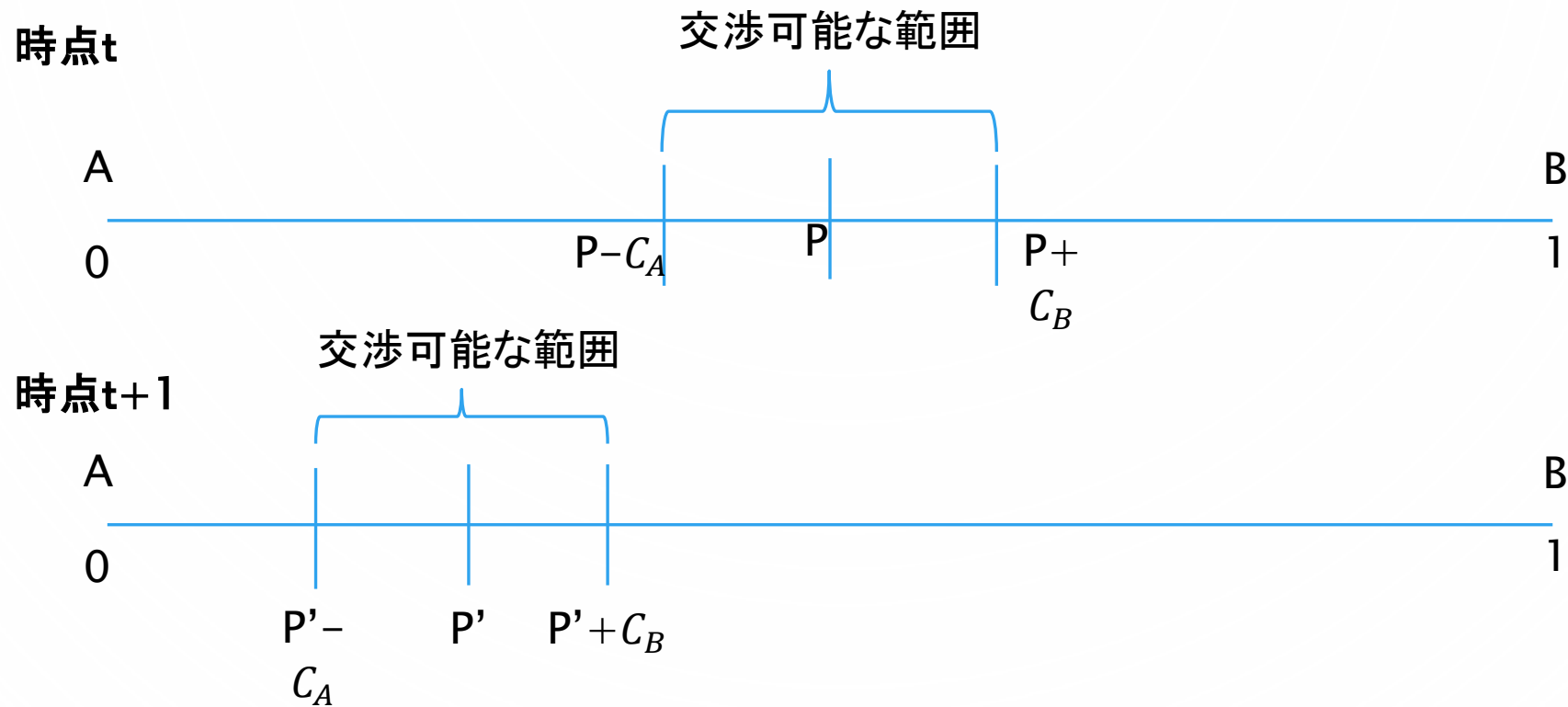


Aの主観



- 含意: 自国や相手国の力量を見誤ると戦争に至る

## ◎コミットメント問題



- 含意: 相手の約束を信用できない場合、戦争が生じる



# 安全保障の政策選択肢

- 抑止
  - 自前の**軍拡**による抑止
  - 同盟**による抑止
- 安心供与
  - 安全保障のジレンマ対策
  - 制度化**（例、憲法）による自制
- 安心共同体
  - 共通の利益
  - われわれ意識**

# 安全保障と民主主義

インタビュー

## 抑止と安心供与 両方を備えてこそ リアリズム持つ

国民の間には反対を押し切って集団的自衛権の行使を認める安全保障関連法が成立した。来年月曜日に施行される。だが、抑止と安心供与は果たしたのか。今後の動きをにらみながら「私たちの民主主義」を擁護する国際政治学者、石田淳・東京大学教授に聞いた。

——新しい安全保障法をどう考えていますか。  
「まず、集団的自衛権の行使は国際法上ではある種の憲法解釈を要する。安全保障法を制定するに当たっては、安全保障の観点から、抑止と安心供与の両方を備えてこそ、リアリズムを持つべきである。抑止と安心供与は、安全保障の両輪である。抑止は、他国に対する威嚇や威嚇の行使を必要とする。安心供与は、他国に対する安心の提供である。抑止と安心供与は、安全保障の両輪である。抑止は、他国に対する威嚇や威嚇の行使を必要とする。安心供与は、他国に対する安心の提供である。」

——「抑止と安心供与」の二つが成り立っている。抑止は、他国に対する威嚇や威嚇の行使を必要とする。安心供与は、他国に対する安心の提供である。抑止と安心供与は、安全保障の両輪である。抑止は、他国に対する威嚇や威嚇の行使を必要とする。安心供与は、他国に対する安心の提供である。」

——「抑止と安心供与」の二つが成り立っている。抑止は、他国に対する威嚇や威嚇の行使を必要とする。安心供与は、他国に対する安心の提供である。抑止と安心供与は、安全保障の両輪である。抑止は、他国に対する威嚇や威嚇の行使を必要とする。安心供与は、他国に対する安心の提供である。」

——「抑止と安心供与」の二つが成り立っている。抑止は、他国に対する威嚇や威嚇の行使を必要とする。安心供与は、他国に対する安心の提供である。抑止と安心供与は、安全保障の両輪である。抑止は、他国に対する威嚇や威嚇の行使を必要とする。安心供与は、他国に対する安心の提供である。」

——「抑止と安心供与」の二つが成り立っている。抑止は、他国に対する威嚇や威嚇の行使を必要とする。安心供与は、他国に対する安心の提供である。抑止と安心供与は、安全保障の両輪である。抑止は、他国に対する威嚇や威嚇の行使を必要とする。安心供与は、他国に対する安心の提供である。」

### 国際政治学者

いしだ あつし  
石田 淳 さん

1963年生まれ。東大教授。リアリズムを踏まえた現実主義的な国際政治の論者として知られる。故郷本郷東大名誉教授に学ぶ。

「抑止と安心供与の両方を備えてこそ、リアリズムを持つべきである。抑止は、他国に対する威嚇や威嚇の行使を必要とする。安心供与は、他国に対する安心の提供である。抑止と安心供与は、安全保障の両輪である。抑止は、他国に対する威嚇や威嚇の行使を必要とする。安心供与は、他国に対する安心の提供である。」

## 権力過信許さぬ 国民の監視が 海外の不信緩和

——抑止と安心供与の両方を備えてこそ、リアリズムを持つべきである。抑止は、他国に対する威嚇や威嚇の行使を必要とする。安心供与は、他国に対する安心の提供である。抑止と安心供与は、安全保障の両輪である。抑止は、他国に対する威嚇や威嚇の行使を必要とする。安心供与は、他国に対する安心の提供である。」

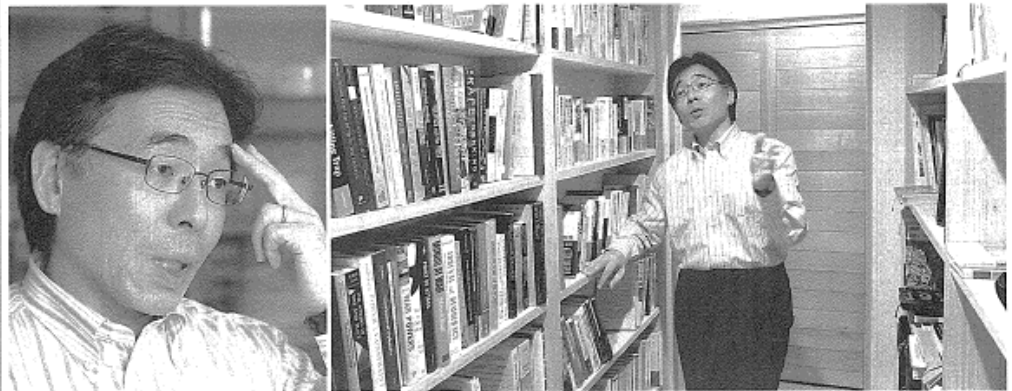
——「抑止と安心供与」の二つが成り立っている。抑止は、他国に対する威嚇や威嚇の行使を必要とする。安心供与は、他国に対する安心の提供である。抑止と安心供与は、安全保障の両輪である。抑止は、他国に対する威嚇や威嚇の行使を必要とする。安心供与は、他国に対する安心の提供である。」

——「抑止と安心供与」の二つが成り立っている。抑止は、他国に対する威嚇や威嚇の行使を必要とする。安心供与は、他国に対する安心の提供である。抑止と安心供与は、安全保障の両輪である。抑止は、他国に対する威嚇や威嚇の行使を必要とする。安心供与は、他国に対する安心の提供である。」

——「抑止と安心供与」の二つが成り立っている。抑止は、他国に対する威嚇や威嚇の行使を必要とする。安心供与は、他国に対する安心の提供である。抑止と安心供与は、安全保障の両輪である。抑止は、他国に対する威嚇や威嚇の行使を必要とする。安心供与は、他国に対する安心の提供である。」

——「抑止と安心供与」の二つが成り立っている。抑止は、他国に対する威嚇や威嚇の行使を必要とする。安心供与は、他国に対する安心の提供である。抑止と安心供与は、安全保障の両輪である。抑止は、他国に対する威嚇や威嚇の行使を必要とする。安心供与は、他国に対する安心の提供である。」

——「抑止と安心供与」の二つが成り立っている。抑止は、他国に対する威嚇や威嚇の行使を必要とする。安心供与は、他国に対する安心の提供である。抑止と安心供与は、安全保障の両輪である。抑止は、他国に対する威嚇や威嚇の行使を必要とする。安心供与は、他国に対する安心の提供である。」



取材を終えて

「抑止と安心供与の両方を備えてこそ、リアリズムを持つべきである。抑止は、他国に対する威嚇や威嚇の行使を必要とする。安心供与は、他国に対する安心の提供である。抑止と安心供与は、安全保障の両輪である。抑止は、他国に対する威嚇や威嚇の行使を必要とする。安心供与は、他国に対する安心の提供である。」

# でも今日は、、、

Dr. Kai QUEK 郭全鑑 - Departm x +

← → ↻ ppaweb.hku.hk/f/quek

香港大學政治與公共行政學系  
Department of Politics and Public Administration  
The University of Hong Kong

Home | Sitemap | Privacy

Keyword Search


About the Department	News and Events	People	Programmes	Courses and Timetables	Research	Learning Resources	Contact Us
----------------------	-----------------	--------	------------	------------------------	----------	--------------------	------------

The Department of  
**Politics and Public Administration**  
a founding department of the Faculty of Social Sciences

## PEOPLE

Full-time Faculty members

Home > People > Full-time Faculty members



**Dr. Kai QUEK 郭全鑑**

### Awards

- HKU Outstanding Young Researcher Award
- MIT Presidential Fellowship
- Cornell Presidential Research Scholarship

### Publications

- "Authoritarian Public Opinion and the Democratic Peace" (with Mark Bell). *International Organization* (2018): [Link](#)
- "Can China Back Down? Crisis Deescalation in the Shadow of Popular Opposition" (with Alastair Iain Johnston). *International Security* (2018): [Link](#)
- "Type II Audience Costs." *The Journal of Politics* (2017): [Link](#)
- "Are Costly Signals More Credible? Evidence of Sender-Receiver Gaps." *The*

# QUEK, KAI "RATIONALIST EXPERIMENTS ON WAR."

*POLITICAL SCIENCE RESEARCH AND METHODS* (2015)

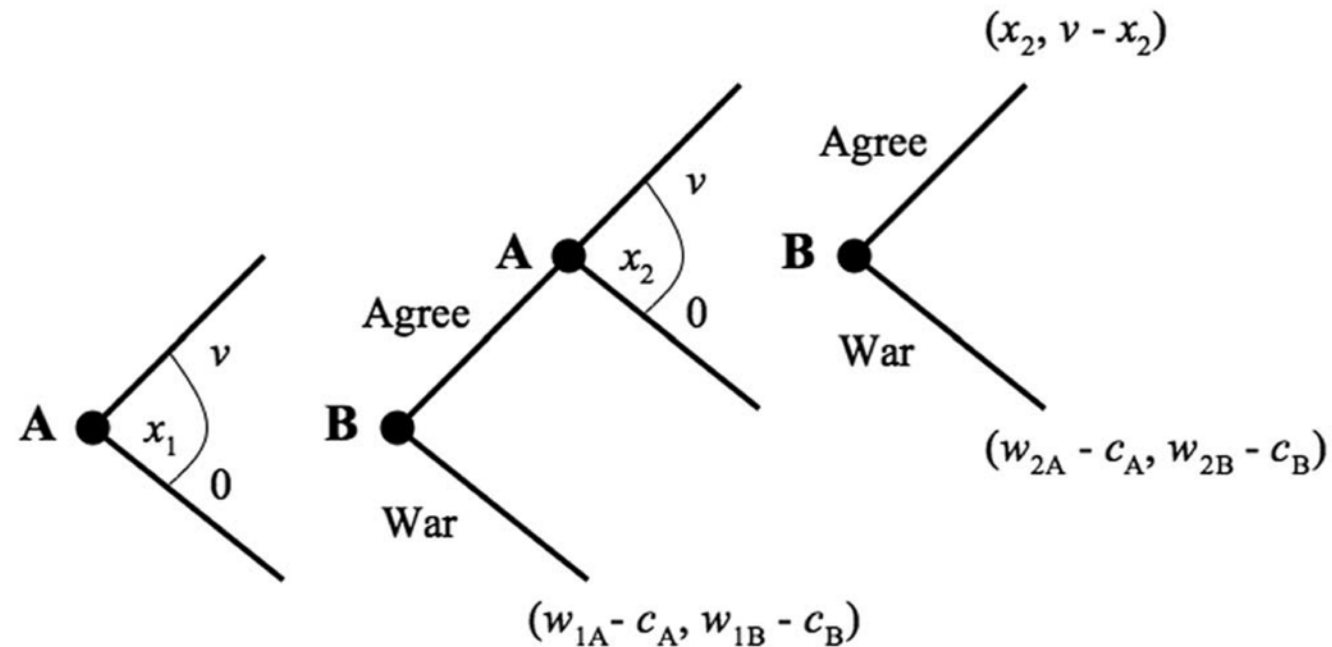


Fig. 1. Crisis bargaining game

## *Experimental Conditions*

- *Enforcement*: Player A cannot change its Stage 1 demand ( $x_1$ ) in Stage 2. The computer will directly equate  $x_1 = x_2$ . This is perfect enforcement and it eliminates the commitment problem.
- *No enforcement*: Player A can change its Stage 1 demand in Stage 2. Hence, the commitment problem remains.
- *Public information*: The cost of war  $c_A = c_B = 2$  is known to all players. Each player is told: “You know your Opponent’s cost of war. Your Opponent knows your cost of war.”
- *Private information*: Each player knows its own cost of war ( $c_i = 2$ ), but does not know its opponent’s cost of war.<sup>7</sup> Each player is told: “You do NOT know your Opponent’s cost of war. Your Opponent does NOT know your cost of war.”<sup>8</sup> Players are told that the cost will be assigned once in Round 1 and thereafter fixed for all subsequent rounds in the game.



TABLE 1      *Incidence of War Across Conditions*

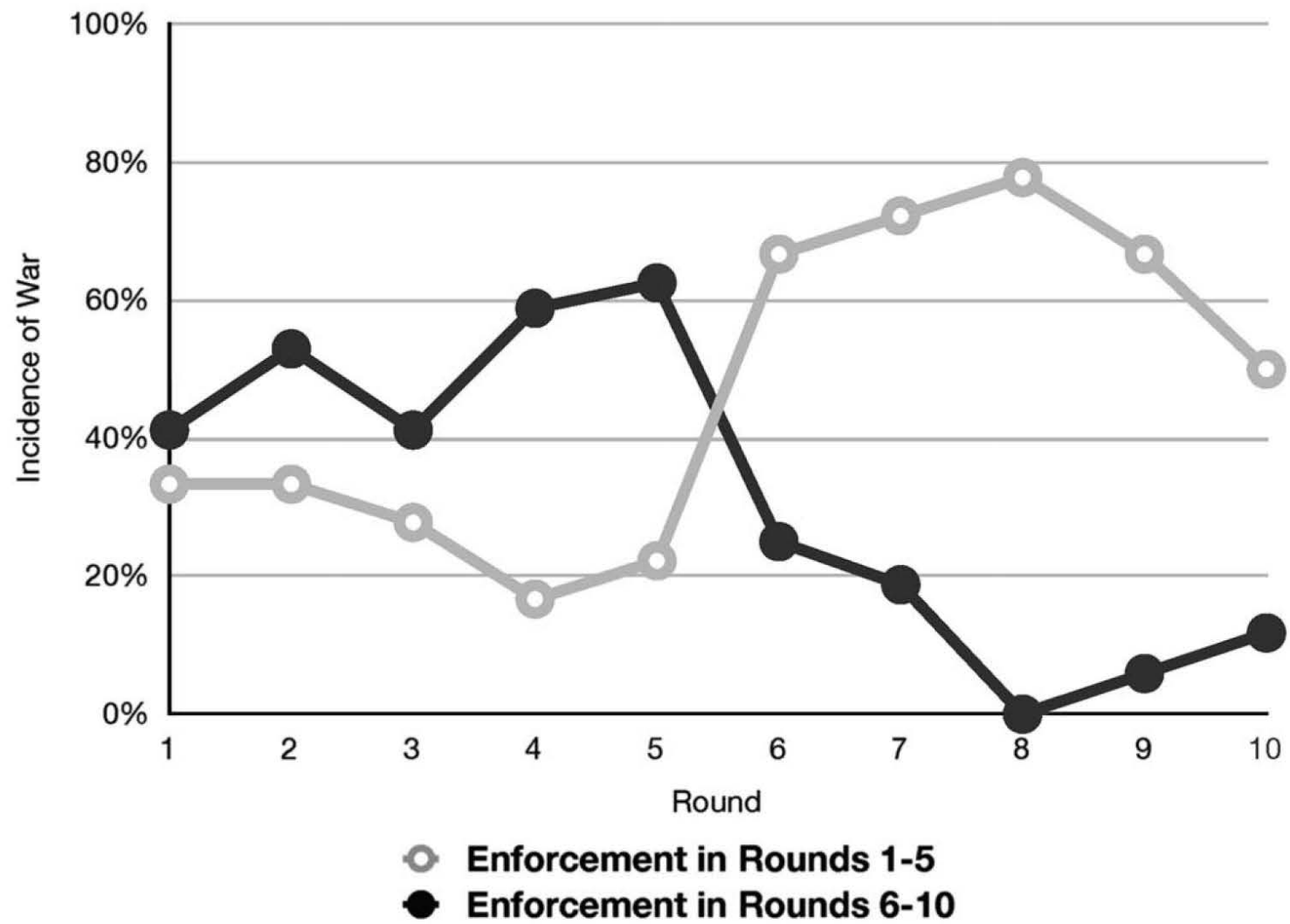
	Public Information	Private Information
Enforcement	0.17	0.23
No Enforcement	0.63	0.55

*Note:* maximum possible value for the incidence of war is 1.00 (100 percent).

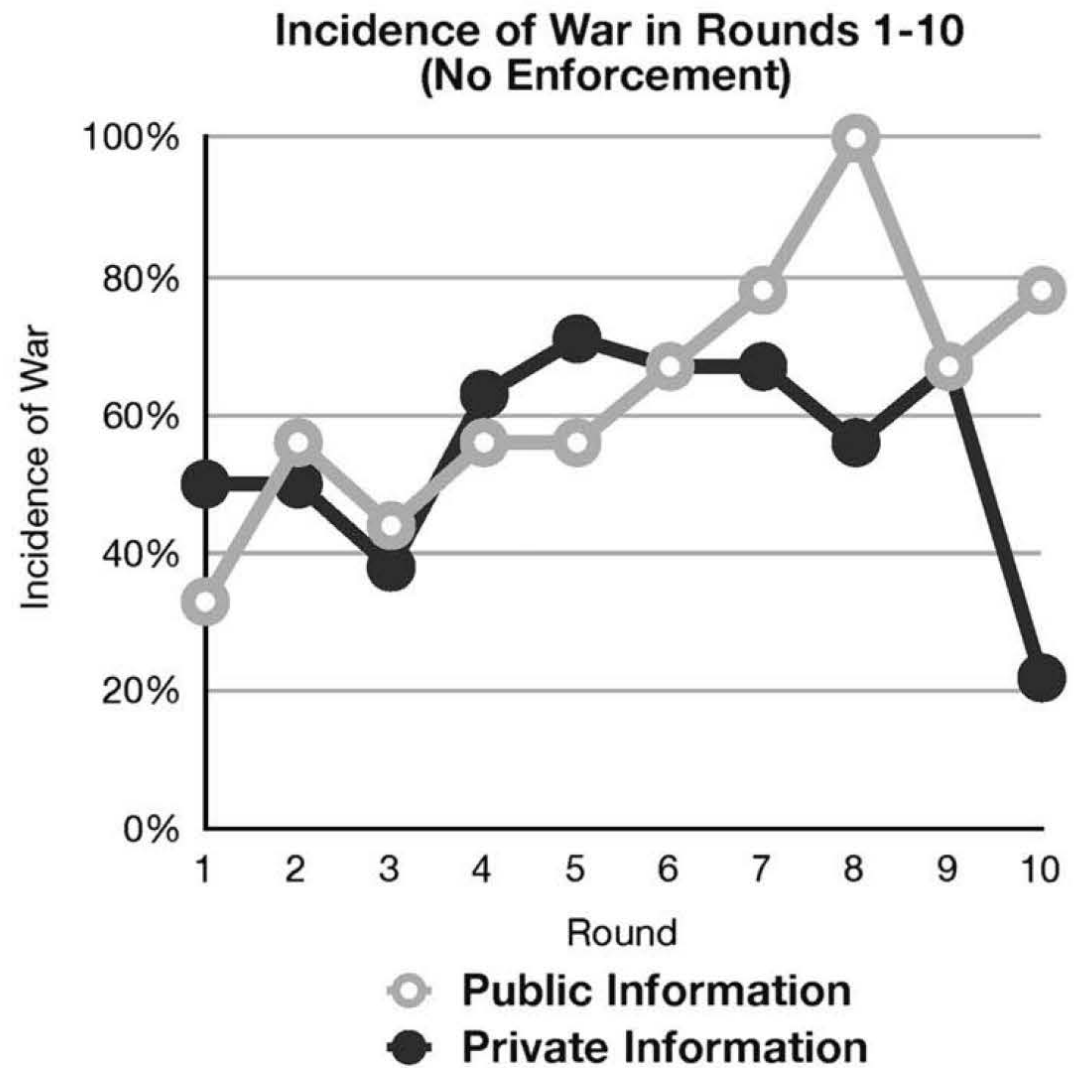
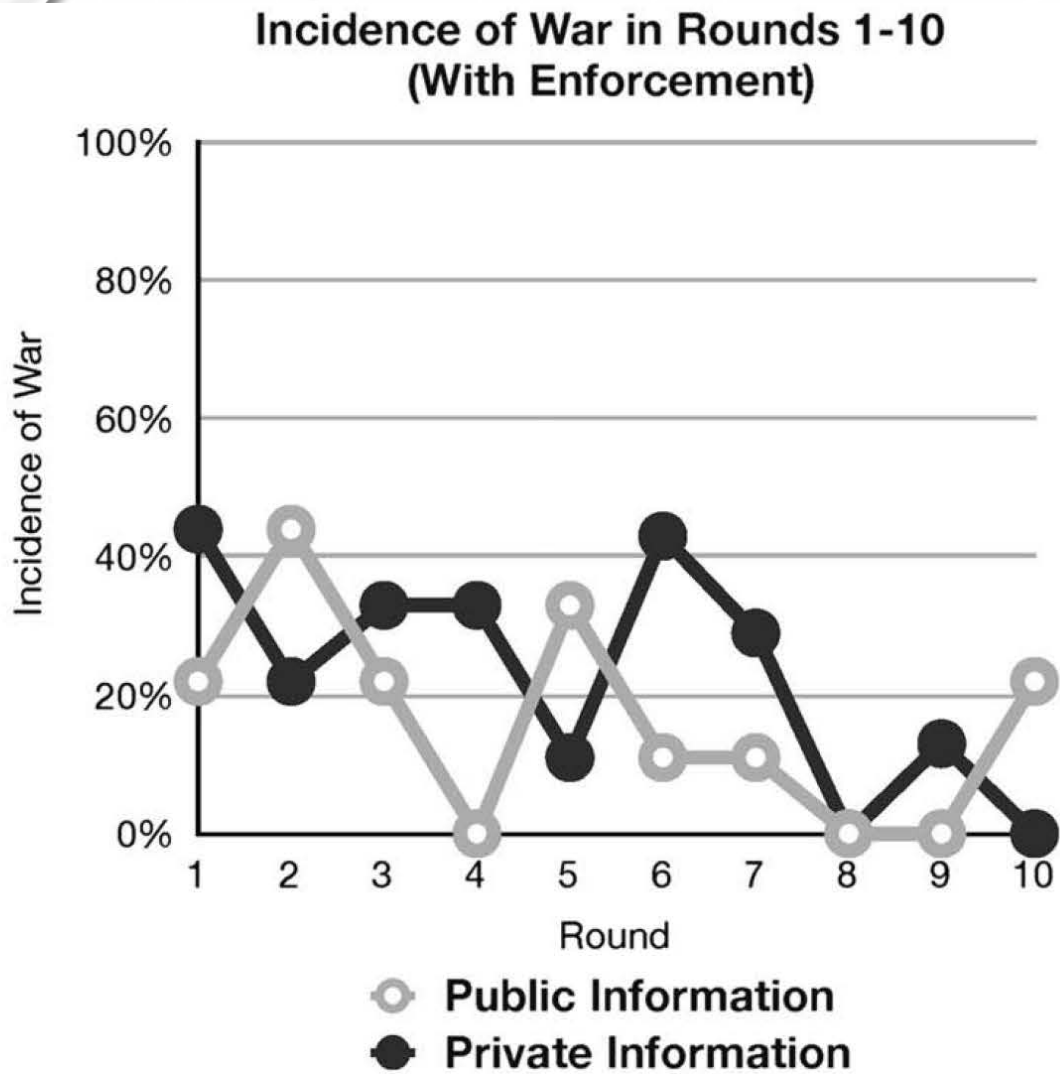
TABLE 2      *Average Number of Wars Per Player*

Session	Public-Information Condition		Private-Information Condition	
	Enforcement	No-Enforcement	Enforcement	No-Enforcement
1	1.00	2.17	1.33	2.67
2	0.83	3.67	1.00	3.20
3	0.67	3.67	1.33	2.33
Overall	0.83	3.17	1.23	2.74

*Note:* maximum possible value is 5.00 for each player.



*Fig. 2. Incidence of war in Rounds 1–10*



*Fig. 5. Incidence of war (by enforcement conditions)*



## 第7回:合理的戦争原因論、民主的平和論とその対抗的議論

合理的戦争原因論、民主的平和論とその対抗的議論を概観する。

資料:砂原ほか『政治学の第一歩』有斐閣、第10章

## 第8回:内戦、テロリズム、非国家主体

内戦やテロリズムに関する国際関係論の代表的な研究を紹介する。

資料:砂原ほか『政治学の第一歩』有斐閣、第12章

## 第9回:国際政治経済

国際政治経済をめぐる諸理論・論点をカバーする。

資料:砂原ほか『政治学の第一歩』有斐閣、第11章

## 第10回:グローバリゼーションと国際関係(テキスト第8章)

グローバリゼーションが国際関係に与える影響の諸側面について講義する。

## 第11回:情報革命と国際関係(テキスト第9章)

情報革命による国際関係が受けている様々な影響と概念(例、ソフトパワー、パブリックディプロマシー)を講義する。

## 第12回:現在の引火点(テキスト第7章)

教科書を参照しながら国際関係のリスク要因について分析と議論を行う。

## 第13回:オンライン試験